



2022年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年4月6日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 COO (氏名) 近藤 和行
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO執行役員 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 四半期報告書提出予定日 2022年4月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第2四半期の連結業績(2021年9月1日~2022年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第2四半期	6,097	6.1	1,349	6.7	1,348	1.0	906	△0.5
2021年8月期第2四半期	5,747	1.0	1,264	25.0	1,334	31.2	911	31.9

(注) 包括利益 2022年8月期第2四半期 906百万円(△0.5%) 2021年8月期第2四半期 911百万円(31.9%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2022年8月期第2四半期	50	93	50	88
2021年8月期第2四半期	51	17	51	14

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第2四半期	23,068	90.4	20,876	90.4		
2021年8月期	22,972	88.4	20,316	88.4		

(参考) 自己資本 2022年8月期第2四半期 20,852百万円 2021年8月期 20,301百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2021年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00	
2022年8月期	—	0.00				
2022年8月期(予想)			—	20.00	20.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	12,200	1.6	1,810	△32.2	1,810	△34.0	1,250	△33.0	70	21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年8月期2Q	17,804,032株	2021年8月期	17,804,032株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2022年8月期2Q	137株	2021年8月期	137株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年8月期2Q	17,803,895株	2021年8月期2Q	17,803,895株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予測などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「新型コロナウイルス」といいます。）による厳しい状況が残る中で、各種政策の効果や海外経済の改善等により、持ち直しの動きが見られる状況となりました。一方、新型コロナウイルスの再拡大や金融資本市場の変動等の影響などを注視する必要があります、先行きが不透明な状況が続いております。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の77.1%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しております。衛星放送メディア関連の広告費は、1,209億円（前年比103.1%）となり、そのうち70%強は当社を含む無料BSデジタル放送事業が占めております。（「2021年 日本の広告費」(株)電通調べ）

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで 人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、新規コンテンツ開発、配信ビジネス等の新規事業開発に取り組み、既存コンテンツ強化とともに効果的な広告宣伝、広報施策を実施いたしました。

【レギュラー番組】

報道番組では、12月より『報道ライブ インサイドOUT』の第1・3金曜日キャスターとして、経済番組『NEXT company』でキャスターを務める岸田雪子さんを迎え、より幅広いテーマで視聴者の“今知りたい”に応えるべく、内容を強化しました。

歴史教養番組『偉人・素顔の履歴書』では、北条義時や北条政子など、話題の偉人を取り上げ、放送・配信を通じて多くの視聴者にご覧いただきました。

『八代亜紀 いい歌いい話』は、お正月の特別番組として「今、届けたいニッポンの名曲」と題し、千昌夫さん、細川たかしさん、伍代夏子さんなど、豪華ゲストによる2時間スペシャルを放送しました。

紀行番組『私たち鉄印帳はじめます。』は、北陸から東北をつなぐローカル鉄道の鉄印集めの旅を年末に2夜連続で放送いたしました。

1月に放送を開始した『ラランド「有象無象SHOW」』は、男女お笑いコンビのラランドが様々な企画に挑戦するバラエティ番組で、新規コンテンツ開発と配信強化を目的に製作委員会へ参加しております。また、女子プロレスの試合ダイジェストと、選手たちのドキュメンタリーをお届けするスポーツ番組『We are STARDOM!!～世界が目撃！女子プロレス～』も1月より放送を開始しました。

そのほか、『京都画報』、『京都浪漫 悠久の物語』、『大人のバイク時間 MOTORISE』、『マイナビ Be a booster!B. LEAGUE ウィークリーハイライト』、『諸見里しのぶ 実践 ゴルフテク!』、『BSイレブン競馬中継』、『うまナビ!イレブン』等も引き続き、内容をより一層充実させて放送しております。

更に、世界最大級のドキュメンタリーチャンネルである「ディスカバリーチャンネル」が誇る豊富で良質な作品群の中から作品を厳選し『ディスカバリー傑作選』として、「車」「自然」「料理」等、幅広いジャンルの番組を放送しております。

ドラマジャンルでは、製作委員会参加作品の『パティシエさんとお嬢さん』、日本初放送の中国ドラマ『雨に眠る罪-非常目撃-』、BS初放送のタイBLドラマ『My Engineer～華麗なる工学部～』とヨーロッパミステリー『グランチェスター牧師探偵シドニー・チェンバース シーズン3』等、日本、アジア、欧州等の多彩なコンテンツを放送しております。

【特別番組】

特別番組は、年末年始を中心に様々なジャンルのコンテンツを放送いたしました。

元日には、昨年8月にさいたまスーパーアリーナで開催された世界最大のアニソンライブイベント『アニメロサマーライブ2021 powered by Anison Days』のダイジェスト番組をテレビ独占放送で7時間にわたってお届けし、幅広い年齢の方にご視聴頂きました。今年で5年目の放送となる『Augusta Camp2021』では、オフィスオーガスタ主催のライブイベントをバックステージの模様を交えてお届けしました。また、ドキュメンタリー番組『ディスカバリーお正月SP NASA&スペースX 未来への挑戦』では、宇宙事業立ち上げから、民間有人宇宙飛行実現までの裏側を追った貴重な映像を日本初放送しました。1月3日・4日に2夜連続でお届けした『東京藝大で教わる西洋美術の見かた』は、同書籍の著者・佐藤直樹東京藝術大学准教授を指南役に、松尾貴史さん、篠原ともえさんとともに初心者から美術ファンまでが楽しめる番組として、ルネッサンスの巨人ラファエッロをテーマにお送りしました。さらに、新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの開催となった『2021年度全日本学生柔道体重別選手権大会』や、今年4回目となるプロスポーツ競輪の魅力がわかるトークバラエティ『チャペリバIV』の放送など、スポーツ番組の充実にも努めました。

【アニメ関連事業】

「ANIME+」枠では、製作委員会出資作品である『プリンセスコネクト! Re:Dive Season2』、『錆喰いビスコ』、『東京24区』、『プラチナエンド』、『その着せ替え人形は恋をする』、『怪人開発部の黒井津さん』をはじめ、話題作『鬼滅の刃 遊郭編』等、毎クール約40タイトルのアニメ番組を放送しております。「アニメプラス」枠では『ガンダムシリーズ』、「キッズアニメ∞(むげんだい)」枠では『ミラキュラス レディバグ&シャノワール』、『スーパーウィングス』、『どすこいすしずもう』を放送、情報番組『アニゲー☆イレブン!』、音楽番組『Anison Days』とともに、様々な年齢層のアニメファンのニーズにお応えできるよう努めました。

年末年始には『アニメロサマーライブ2021 powered by Anison Days』に加え、『Fate Project 大晦日TVスペシャル2021』、『魔法科高校の劣等生 追憶編』、『映画 ノーゲーム・ノーライフ ゼロ』、『劇場版 ハイスクール・フリート』、『劇場版 冴えない彼女の育てかた Fine』を特別編成いたしました。

また、読み聞かせ番組『今日のえほん』は、グループ会社である㈱理論社、㈱国士社の児童書を映像化し放送しており、公式YouTubeチャンネルでの配信も行っております。

【配信コンテンツ】

当期の重点施策である「配信ビジネス、新規事業開発と収益化」を目的とし、自社制作番組のネット配信を強化しております。新番組『ラランド「有象無象SHOW」』をはじめ、『京都画報』、『偉人・素顔の履歴書』、『太田和彦のふらり旅 新・居酒屋百選』、『私たち鉄印帳はじめます。』、『大人のバイク時間 MOTORISE』、『諸見里しのぶ 実践 ゴルフテク!』、『今日のえほん』など番組を厳選し、YouTube、GYAO! にて広告付き見逃し配信を行い、さらにParavi、FODにて定額見放題での配信を行うなど、コンテンツの拡充およびプラットフォームの拡大に努めました。また、当社独自の配信サイト「BS11オンデマンド」でも、引き続きレギュラー番組、特別番組について、放送後に無料見逃し配信を行っております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は 6,097,749千円（前年同期比 6.1%増加）となりました。営業利益は 1,349,097千円（前年同期比 6.7%増加）、経常利益は 1,348,476千円（前年同期比 1.0%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 906,733千円（前年同期比 0.5%減少）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ 95,885千円増加し、23,068,791千円（前連結会計年度末比 0.4%増加）となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が 251,797千円、有形固定資産の減価償却が進み、建物及び構築物（純額）が 50,277千円、有形固定資産その他（純額）が 93,304千円とそれぞれ減少したものの、現金及び預金が 428,466千円、棚卸資産が88,847千円とそれぞれ増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ 464,422千円減少し、2,192,311千円（前連結会計年度末比 17.5%減少）となりました。主な要因は、未払法人税等が 176,467千円、流動負債のその他に含めて表示している未払金が 183,393千円、未払費用が 105,633千円とそれぞれ減少したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ 560,308千円増加し、20,876,480千円（前連結会計年度末比 2.8%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当 356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益 906,733千円の計上に伴い 550,655千円増加したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は 13,449,787千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、810,114千円（前年同期は 815,664千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 1,348,476千円の計上及び法人税等の支払額 589,800千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、25,028千円（前年同期は 191,640千円の使用）となりました。これは主に 有形固定資産の取得による支出 19,104千円、無形固定資産の取得による支出 1,634千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、356,619千円と（前年同期は 338,846千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額 355,937千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月期の業績予想につきましては、2021年10月7日付の「2021年8月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,021,321	13,449,787
受取手形及び売掛金	2,065,994	1,814,197
棚卸資産	363,519	452,366
その他	69,312	75,510
流動資産合計	15,520,147	15,791,861
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,369,269	2,318,992
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	606,993	513,688
有形固定資産合計	7,011,019	6,867,438
無形固定資産	84,248	72,895
投資その他の資産	357,490	336,597
固定資産合計	7,452,758	7,276,930
資産合計	22,972,905	23,068,791
負債の部		
流動負債		
買掛金	500,329	478,542
短期借入金	500,000	500,000
未払法人税等	634,721	458,253
返品調整引当金	60,585	—
その他	853,693	642,531
流動負債合計	2,549,329	2,079,327
固定負債		
退職給付に係る負債	89,109	94,688
その他	18,295	18,295
固定負債合計	107,404	112,984
負債合計	2,656,734	2,192,311

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,183,936
資本剰余金	3,517,726	3,517,726
利益剰余金	12,599,839	13,150,494
自己株式	△143	△143
株主資本合計	20,301,358	20,852,014
新株予約権	14,812	24,466
純資産合計	20,316,171	20,876,480
負債純資産合計	22,972,905	23,068,791

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)
売上高	5,747,236	6,097,749
売上原価	2,692,932	2,870,120
売上総利益	3,054,303	3,227,628
販売費及び一般管理費	1,789,694	1,878,531
営業利益	1,264,609	1,349,097
営業外収益		
受取利息	57	64
保険解約返戻金	69,130	31
その他	3,026	1,278
営業外収益合計	72,214	1,374
営業外費用		
支払利息	1,946	1,968
その他	—	27
営業外費用合計	1,946	1,995
経常利益	1,334,877	1,348,476
税金等調整前四半期純利益	1,334,877	1,348,476
法人税、住民税及び事業税	439,959	416,342
法人税等調整額	△16,154	25,400
法人税等合計	423,804	441,743
四半期純利益	911,072	906,733
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	911,072	906,733

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)
四半期純利益	911,072	906,733
四半期包括利益	911,072	906,733
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	911,072	906,733
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,334,877	1,348,476
減価償却費	228,307	175,246
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△14,662	△60,585
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	15,000
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	3,360	5,579
受取利息及び受取配当金	△57	△64
支払利息	1,946	1,968
売上債権の増減額(△は増加)	103,486	251,797
棚卸資産の増減額(△は増加)	△67,807	△88,847
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,480	△21,786
未払金の増減額(△は減少)	△121,657	△176,431
未払費用の増減額(△は減少)	△48,450	△105,633
未払消費税等の増減額(△は減少)	△128,399	△12,555
その他	△10,111	69,656
小計	1,276,350	1,401,819
利息及び配当金の受取額	57	64
利息の支払額	△1,946	△1,968
法人税等の支払額	△458,796	△589,800
営業活動によるキャッシュ・フロー	815,664	810,114
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△313,386	△19,104
無形固定資産の取得による支出	△30,038	△1,634
保険積立金の解約による収入	158,815	392
その他	△7,030	△4,681
投資活動によるキャッシュ・フロー	△191,640	△25,028
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	20,000	—
長期借入金の返済による支出	△1,900	—
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,023	△682
配当金の支払額	△355,922	△355,937
財務活動によるキャッシュ・フロー	△338,846	△356,619
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	285,178	428,466
現金及び現金同等物の期首残高	11,399,320	13,021,321
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,684,498	13,449,787

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識基準に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。これにより、当社グループの書籍等の出版販売について、従来は、返品による損失見込額を返品調整引当金として計上しておりましたが、変動対価に関する定めに従って、返品されると見込まれる製品についての売上高および売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返金負債を流動負債の「その他」および返品資産を流動資産の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

当第2四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度における有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。